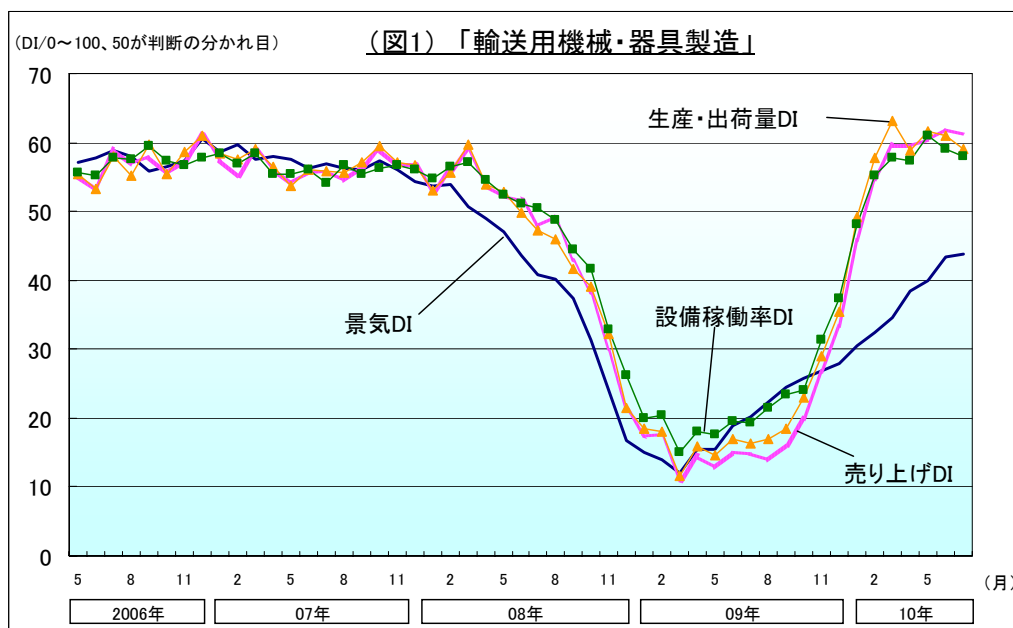


「輸送用機械・器具製造」の動向

- ・「輸送用機械・器具製造」の2010年7月の景気DIは最低であった2009年3月を31.6ポイント上回ったが、最高であった2006年12月の約7割の水準にとどまる
- ・売り上げDI、生産・出荷量DI、設備稼働率DIは2010年2月には3指標すべてで50を上回り、前年同月より増加している

日本の基幹産業である自動車産業は、国内外での環境対応車向け購入補助金の導入や、税制優遇措置の実施が奏功して販売が持ち直した。自動車新車登録台数は2009年8月から前年同月比でプラスに転じ、直近の2010年7月は33万3,403台で15.0%増と前年同月を上回り、最悪期を脱して回復傾向にある。今後は新車購入時に国から支給されるエコカー補助金が9月末に打ち切られるため、反動による需要の冷え込みが懸念されるが、現在の自動車産業はどの程度回復したのだろうか。そこで、TDB景気動向調査の自動車関連業種である「輸送用機械・器具製造」について探る。

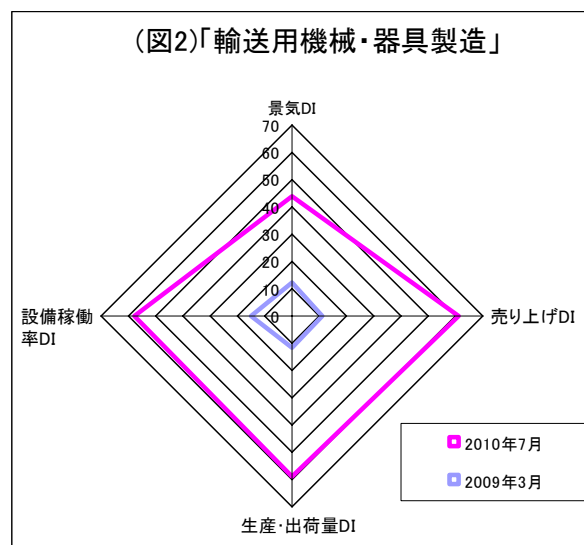


DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

月には3指標すべてで前年同月を上回ったか、下回ったかの判断の分かれ目である50を上回り、前年同月より増加し始め、景気DIも2010年4月(38.5)にリーマン・ショックが起きた2008年9月の水準(37.3)を超え、直近の7月の景気DIは前月比0.3ポイント増の43.7となった。

直近の2010年7月と過去最低となった2009年3月を比較する(図2)。2009年3月から2010年7月の改善幅は、景気DIが31.6ポイントとなった。売り上げDIは50.2ポイント、生産・出荷量DIは47.5ポイント、設備稼働率DIは42.9ポイントとなり、大幅に改善している。2010年7月は売り上げDI(61.1)、生産・出荷量DI(59.1)、設備稼働率DI(58.0)ともに50を上回ったため前年同月を上回っており、景気DIが改善した要因となっている。



一方、直近の2010年7月と景気DIがもっとも高かった2006年12月(60.6)を比較すると、景気DIは16.9ポイント下回った。現在回復傾向にあるとはいえ、依然として大きく下回っており、2006年12月の約7割の水準にとどまっている。その他の3指標を見ると、売り上げDIは0.1ポイント上回り、設備稼働率DIは0.3ポイント上回った。生産・出荷量DIは1.8ポイント下回っている。これら3指標は前年同月と比較した指標であり、売り上げ、生産・出荷量、設備稼働率は2009年が非常に低水準であったため、2010年7月はDIが大きく改善し、景気DIより2006年12月との差が小さくなった。これら3指標はそれぞれ2010年2月以来連続して50を上回り、売り上げ、生産・出荷量、設備稼働率は上昇しているが、改善幅は縮小傾向で2010年7月は3指標そろって前月比で小幅なマイナスとなるなど、回復が鈍化していることが、景気DIが7割にとどまっている要因の一つとなっている。

エコカー減税・補助金が好材料となり、売り上げや生産・出荷量、設備稼働率が改善したことで「輸送用機械・器具製造」は持ち直しの動きが続いている。しかし、「輸送用機械・器具製造」の景気DIは最も水準が高かった時の約7割の水準にとどまり、本格回復とは言えない。今後はエコカー補助金の終了による反動減に加え、円高や輸出の回復の失速などによる景況の悪化が懸念される。本格回復となる前に再び悪化に転じてしまえば、緩やかではあるが回復を続けている国内景気の下押し要因となる。エコカー補助金の継続を望む声もあるが、予算としても厳しく、また、需要は先食いされており、今までほどの効果は見込めないと考えられる。すそ野が広く、日本経済

TDB

DI 分析レポート

TDB 景気動向調査（URL：<http://tdb-di.com/>）

に大きな影響を与える自動車産業には懸念材料をはねのけられる魅力的な車作りや市場の開拓を行い、日本経済をけん引して欲しい。

（産業調査部 経済動向研究チーム K. S）

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。